

日本学術会議 議事録

会議の名称： 経営学委員会	
「経営学における若手研究者の育成に関する分科会」（第 24 期・第 2 回）	
(1) 幹事会 (2) 部会 (3) 連合部会 (4) 委員会 (5) 分科会 (6) 小委員会 (7) 小分科会 (8) 若手アカデミー	
開催日時	平成 30 年 6 月 24 日 (日) 13:00~15:00
開催場所	筑波大学東京キャンパス 6 階 6 1 4 修士研究室
出席者	上林憲雄、原拓志、西尾チヅル、蟹江章、佐藤信彦、吉原正彦、仙石正和、村松潤一、上野恭裕
欠席者	徳賀芳弘、瓜生原葉子、加藤志津子、藤田誠
議事概要	<p>1. 若手研究者育成のプログラムについて（原委員による神戸大学の事例報告） 神戸大学における大学院教育の内容と方法について、報告があり議論を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム体系について（特論、方法論、特殊研究など） ・後期課程指導学生上限の設定 ・入学後のゼミ見学と、4 月下旬の指導教員の希望の提出 ・主査一人、副査二人による論文審査 ・後期課程進学判定のための総合学力試験と論文審査について ・博士後期課程の授業である論文作成セミナーや第 2 論文ワークショップについて ・修士論文と博士論文との間に求められる第 2 論文について ・査読付き論文の第 2 論文読み替え制度について ・留学生が増加、修士号取得後の民間への就職希望の増加傾向 ・前期課程から後期課程への進学率、博士取得率について ・専門職大学院（MBA）から博士後期課程への編入試験について ・OD のための無給の研究員制度の設置について <p>以下議論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な大学院入試のための出題業務の負担について ・実務者教員の育成をどう考えるかについて ・査読付き学術雑誌に研究者育成の判断をゆだねていることの問題について ・博士論文を提出させて就職をさせることが研究者の養成なのかという疑問について ・経営学固有の問題として、実務との連携を考慮に入れる必要性について ・研究にも定量研究、定性研究があり、多様な育成方法があることについて ・定量研究、査読付き論文に偏っていることの問題について <p>2. 2018 年 12 月 9 日開催予定の学術フォーラムについて タイトル：「経営学領域における研究業績の評価と若手研究者の育成」 内容：若手研究者・大学院生を体系性を持った研究へ導く研究評価システムの在り方を検討する。</p>

3. その他（次回分科会について）

日時：10月28日（日）15時～17時

会場：筑波大学東京キャンパス6階614修士研究室を予定

議題：上野委員より論点整理のための報告

以上（記録：上野恭裕，編集：原 拓志）

出席者全員が確認しました。

議長の承認を得ました。